



個人研究
サステナブル社会

改善活動継続の マネジメント要因解明



企業活動において、価値を直接生み出すのは仕事が行われる現場です。改善活動を継続することは、現場が持つ潜在力を発揮し続けるためには必要不可欠です。そのためにどのようなマネジメントが必要となるかについて研究しています。

KEYWORDS オペレーションマネジメント、組織学習、インクリメンタルイノベーション

RESEARCHER

コンピュータサイエンス学部 講師 山口淳



学会発表・論文・著書・社会活動

- [1] 改善活動の活性状態に関するフレームワークの提案；経営情報学会誌，vol.26，No.4.P.241 - 271；2018/3
- [2] Study on Standstill Conditions in Kaizen Activity-Through Case Studies of Two Companies in their Long-term Efforts -Industrial Engineering & Management Systems ,vol16 ,No.1., pp.80-91, 2017/3.
- [3] Signature Procedure in the Management for Kaizen Activities Sustained over the Long Term: A case study of cosmetics manufacturer E; The 20th Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems Conference(APIEMS 2019); pp261-266; 2019/12

01 | 製造現場における改善活動長期継続事例の研究

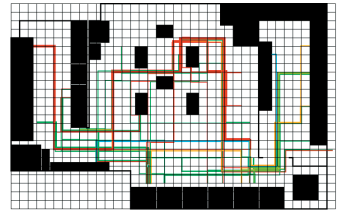
日本の製造現場における改善活動は、KAIZENやLean Production Systemという言葉とともに、概念や方法論が海外に輸出されています。そのような日本の製造現場の改善活動を、10年以上の長期に渡って継続している企業を対象として、製造現場・本社を含むマネジメントの特徴について解明する研究を行っています。



02 | サービス業・管理間接業務の生産性向上施策

サービス業や管理間接業務は、製造現場と比べ、生産性の低さが指摘されています。特に、就業人口におけるサービス業・管理部門の従事者の比率が高い先進諸国にとっては、生産性向上が大きな課題です。

製造現場の改善活動進展事例との比較から、サービス・管理間接業務の生産性向上に向けた方向性や施策を提言することを目指しています。



サービス業の作業者の導線分析の一例

03 | Industry 4.0 環境におけるフレキシビリティ確保

昨今注目度が高いIndustry 4.0の実現形態になるかはまだ未知数ですが、高度な自動化がその主たる特徴です。自動化の導入時に効率性が向上する一方で、変動に対応するための改善活動など現場の持つフレキシビリティが奪われる可能性も高まります。高度な自動化とフレキシビリティを両立させるためのマネジメントのあり方を調査しています。

